

磐城自治新報

發行日 一月十五日(每月二回)
 編輯印刷 箱崎義一
 兼發行人 箱崎義一
 發行所 福島縣石城郡湯本町
 天王崎四番地
 磐城自治新報社
 電話四〇番
 廣告料 五號十二字詰一行金五十錢
 場所指定金壹圓

發刊の辭

今や我國の狀態を以るに 都會農村の別なく、思想界に經濟界に、將又教育界に社會萬般の事象、悉く新たな力の興起を要望して止まぬ、世は擧げて現況の推移を許さぬ、今にして是が打開の道を講ずるにあらずんば悔を千載の後に貼す恨みなきや、今にして善導補救の策を施すにあらずんば、遂に醫するに方なきに陥るの恐なきや、識者を俟つ迄もなき事理明白なる淵に立つの秋である。

是れ我社の非常なる決意と覺悟を以て蹶然奮起した所以である。身を治め家を齊し國を治むるは古來の至言である吾人世に生を稟けては今も未來も人類のあらん限りは、單獨なる仙人生活は到底之を許さぬ、必ず隣保相扶け共存共榮の美に生存の價値歡樂を購はざるを得ない、人間は政治的動物なりといふ、延ては生活は自治にありといふ事が出来る、萬事は近きより遠きに及ぼし小より大を望むを至當順序とす、我社の意を致し力を盡さんとするは此所にある吾人の最も關係の密接離るべからざる地方自治に對する研究施設は最も肝要なるものである。之が完全なる發達圓熟せる經營は、近く小なる隣人より、遠く大なる、國家國民の福祉増大に及ぶ、國家の隆替亦自治如何に存す謂ふ可し、現今行詰まれる環境を開拓する捷徑は他にない。社會の木樨となり、而かも能く其使命を果さんが爲め本紙は生れたのである、然は云ひ操觚の業たる種々なる難關あり、苦境あり、起伏常なきあらゆる障害を排撃し突進し、以て此の意義ある目的を貫徹すべく、奮激献身的努力を盡すべきを期す。

切に江湖諸彦の御指導と御援助を望むものである。

我帝國の現状

代議士 比佐昌平

現代日本最大の憂苦は窮乏なればならぬ。凡てが更正されなければ、と混亂とである、それを吾々がお互の周圍を見れば、昭和日本の生活があるか何處に安定前途には輝く希望の燈火が得たのだ、政治に參與するせる生活があるか國民の多掲げられ民衆悉くが少年のことは吾々の義務でありませらるる職業にある、人ように愉快に元氣よく獅子に使命であるのであるから、數あるゆゑに脅かされておののけに強々踏み清く正しく明るくをうしてゐるのではないか消費税や雜出税が一日も早く齎され、力強い政治によつて此の種の残る所なく賦課されなければならぬ、それを本を更生せしめる重大な責を誅求實に至らざるなくたち來すこと即ち政治である、任は實に選舉權の名によつて千三百万の同胞に結びつゝ、いかに於て世界一といふそれを吾々國民の使命であつたのである。

何よりも前に一黨一家のうけるに至つた、それなら古來のわが政治史を回想私慾の外念無き政治屋を皇政の財庫獨り豊かであるに皇室盛んにして善政室と國民との間に介在せしか、ふに斷じてそうでは施かれ権臣跋扈して永い間、むむむこと勿れ國民の聲を、本來の日本を造りだすの武家專制の時代を脱却して否む所なく「天聽に達せ取も大切な教育費の支て明治の昭代を迎え明治大の少年は入學難の苦しは開設せられたものである。明治、大正の兩陛下にその魂を悸えさせて居るのではないか。

新しい酒は新しい革袋に感られなければならぬ、皇の併し惡魔の手は餘りに永物質の上ばかりではない、室は吾々の皇室であり國家更にも憂ふべきことは精神の窮乏精神的混亂である、子と親と弟子と師と、時代は到來したのである。併し乍ら明治大正の時代いことであらう、從つて何的と精神と新しい、輸入的にはまだ一部特權階級よりも急な事はこの自覺に思想とは互に相反し衝突が介在してし、憲政の起つた人はたとい一人でもし纏れ合ひ絡み合ひ始末が發達を妨げた彼等特權階級二人でも率先して同胞の奮つかない亂闘がそこに演ぜは真正なるべき政治を自己起を促すことである。國をられて居るのではないか。の利慾の手段とした一黨一愛するもの民衆のために悲國民全體として確乎たる信派の道具とした國家的問題しむ者は先陣に起つて國民念がない羅針盤を失つた船に顧みられず部分的利益問題としての少なくとも政治をが波のまに、もまれての題は政治の要務と化したの談する者の義務であらねば、斯して經濟的の統制は素的自覺の大波は捲き起さるる。

れ國家の政治は公正を失し、富む者は益々富んで食しきむるものは貧しく遂に現代の如き窮乏と混亂の現代を招來したのである。

今や普選は布かれたわが祖國日本は千三百万の有權者、政治に參與することを得たのだ、政治に參與する

此の時に當り磐城自治新報せん事を望んで筆をおく。

祝 磐城自治新報

入山探炭株式會社礦業所

三井礦山株式會社礦業所

磐城炭礦株式會社礦業所

古川炭礦株式會社礦業所

品川白煉瓦株式會社湯本支工場

小名濱水産株式會社

湯本信用無盡株式會社

湯本運送株式會社

磐崎商事株式會社

磐城建物株式會社

若松炭礦々業所

常磐線湯本驛前

休業せる 磐城銀行!!

其後の成行如何?

五月下旬突如休業を發表せし其後整理の跡は一つもない同行は地方財界に一大恐慌無きものゝやうに異なりはつ荒を來さしめ、預金者にはかないのでの休業ではない非常なる打撃を加へ世評喧か、平銀行との合併は不調々に騒々重役の無能を叫びに終つた様である、株金丈背徳を痛罵し居るが、目下の損失なら何んとかかなう種々なる方面より之を総合し云ふもの差引マイナス觀際するに、其因直く深くは問題にならぬ、

口なし人をして言はし預金者の聲として或は曰く「口なし人をして言はし預金者の聲として或は曰く」で業に既に數年前から煙災難とあきらめより仕方をし居り今や全焼せんない、泣き出し相に萎れとする危期に瀕せるもので居る、或者は二割でも三割でも、無いものに値打の出割でも取つたが得と預金を來様管がない、重役の聲明賣つて居る、或者は破産のや辯解は三文の値打もない申請をなし内容をよく調査もので、只預金者の激昂をすといきまいて居るもの押へる氣休めに過ぎない、もある。

自治の概念

今回磐城自治新報のと同じ事、一方に偏しては創刊するに當つて、自治よくなり、即ち中央集権が對する極めて初歩的の概盛んになると、地方分権が論を書いて見る、或は蛇足衰へ地方分権に計り力を入の嫌があるかも知れない、中央の統一が振はが、物事は第一歩から踏みなると、恐があるの、しめて行くのが賢實である、然し茲に要する事は地方分の意味で、全然徒爾でも、皆自治行政である、るまいと思ふので、一寸級考へてはならぬ事である、面を汚す事にする、

自治ではない、一体この中で、是が各種団体の意志代をとして是等は立憲政体にして最も必要な事、國家有我國昔からの封建時代専制たものが行政の基となるもの時代でも幾分は大なり小なりである、

自治の見做される實際法として、市は原則は自治存在し、かの牢獄の如きいとして、市の如有給にでさい獨裁的とは云へ一のなつて居るものもある、自治の色を見る事が出来要条件ではない、然し普通自治といふ事第五其團體は費用を自分では外國から這入つて來た事處理する、但し其費用全部である、イギリスでは支配を團體でやらす國家の補助せられたる人民が人民を支配を受けても其はかまわぬ事配することに關係するのなる次に

自治は立憲政体の基礎自治は何んのために必要の協議を要する、又は近我國でも實施せらるゝ運びになつても、陪審制の如く人民から選ばれた者か事實の決定をするといふ様な事は自治であるといふ、我國では府縣市町村が、自治体(或る組合も含むる)とされ(居る)是で見ると國家は一つの大なる自治体であるとも云へる、ドイツでは中世紀に中央集権が衰へて實力なく都市が權力を有する様なり、行政も裁判も都市自身がやる様になつたので、之を自治といふので目下我國では次の様に解釋して居る、

自治の基本第一地方行政をやる事、即ち府縣市町村が各其行政をやる、第二其各種團體が意志を以てやる事即ち之は次項、第三自治行政に關與する人等多く漸次政務に慣練場軍樂並に活動寫眞會をして、行政其催すことなつた、前人氣他一般について色々慣れると事務も簡捷に行はれお互に利益を受けられる、

公設市場を湯本の入山炭礦で新設、石城郡湯本町入山採灰會社では從來不正商人が跋扈し坑夫其他多數の従業員が多大の損失を蒙つて居たので、今回はが排除を期せんため事務部長吉田宗雄氏創案にかゝる公設市場を設け、一切の日用品を販賣することになつた、物價は會社が毎日調査の上公定相場を揭示し違反した商人には出入を禁止する等不正商人は防ぎ止され購買者は優良品を安運に求められるので非常に喜んで居る。

軍樂隊演奏會、五十鈴小名濱入港を期として開催、軍艦五十鈴は十四日小名濱港に入港し十五日濱三郡の在郷軍人の艦上簡閱点呼を行ひ十六日一般人に參觀を許す筈だが不在郷軍人分會海軍班では五十鈴の入港を機會に同艦の軍樂隊三十二名を招聘し十四日午前十時から磐城高等女學校に女學生小學生の爲、同日午後一時からは一般人のため平劇場軍樂並に活動寫眞會を催すことなつた、前人氣他一般について色々慣れると事務も簡捷に行はれお互に利益を受けられる、

各種肥料 磐城セメント販賣 大和屋商店 小泉菊 誠實勉強 岩瀬屋藥店 店主 青木 文治 佐藤履物店 店主 佐藤 定観 小野精米所 小野健之助 櫛田材本店 櫛田 義美 センベイ卸商 小笹商店 荒物雜貨 仲ノ屋商店 小野 利彌 松本精米所 松本 正夫 國井精米所 國井 貢 立花精米所 千葉精米所 比佐精米所 比佐 金太 比佐精米所 比佐 左造

濱街道土木業組合

(いろは順)

- 猪狩 菊三郎 (石城郡平町)
- 西山 新次郎 (石城郡大野村)
- 江口 忠一 (石城郡平町)
- 時田 子之吉 (相馬郡小高町)
- 邊 長作 (石城郡湯本町)
- 加藤 徳次 (同 澤渡村)
- 米倉 平松 (相馬郡中村町)
- 横山 直次郎 (双葉郡幾世橋村)
- 田中 清太郎 (双葉郡長塚村)
- 田中 木村合名會社 (田中 義雄)
- 只野 忠康 (石城郡平町)
- 高木 綱次 (同 赤井村)
- 只野 久次郎 (相馬郡中村町)

正丸正運送店

電話二十一番

活版物の御用

甲子堂

振替山臺七〇五六番

電話二十一番

振替台七〇五六番

秩父宮様と

節子姫御對面

皇太后陛下の畏き御心より 秩父宮殿下と松平節子姫と 十四年度 一六六八噸

慰安興行

湯本驛前高岡自動車部にて は創業三週年間微細の故障

無盡株式會社

同社は創業以來堅實第一主 義を以て業務に終始し庶民

湯本驛最近四ヶ年の成績
一、日平均乗降人員其他
十三年度乗車人員八七一人
十四年度乗車人員八七四人

奉安庭建造の事になつた。

牧野博士の思想

本縣では過般郡山市並に若 松市に於て牧野英一博士を

古河好間鑛業所で

石城郡好間村古河炭坑にて は今回北好間のボーリング

五尺の炭層見

が着炭を見るに至つた炭層 出版するの運びに至り感謝

登録を受けよ

思想悪化暴力團横行等々、 警官は必要に應じて各戸の

發起人及賛助員決定

片倉製糸

石城郡各産業團體の提案に より全町井上、諸橋、青沼

御禮

今回本紙創刊に際しては非 常なる御同情と御後援を蒙

興國の氣分

日本の國情は之れを状態の 觀すべきなり、吾人の樂む

松本材木店

磐崎村藤原

織内農具店

織内精一

丸屋足袋店

芳賀輪店

芳賀紋次郎

小田炭礦株式會社

堀江工業株式會社

常磐工業株式會社

四ツ倉電氣株式會社

戸田銀行

東部電氣株式會社平營業所

錦村長

山崎金三

山崎登

吉田政雄

赤津修一

川田梅吉

湯本町の沿革

ラヂオ慢談

一、徳川幕府以前
本町は上古「コロボツクル」吾人の耳目を驚倒せしむる城地方は、この鑛石では實の左の額である。

近來急速の進歩發展を以て理想であるが残念乍ら當石
五六圓のスピーカー(喇叭)をも答めず天をも怨まず眼
これ位費用がかゝるかといふは東京で十五錢で買つたにして精神の自由を妨げず

められぬ様になる、それで十錢出したアンテナスイツして俗世界に居り一身静か
即ち資本家となり兩者の融難事にあらざるべきを信じ

勞資の研究

高木己之吉

の邑より七萬石にて着封百今の所謂文明が頗る不完全共に少からず
「トルスト」の頻發するに鑑み其間の調る所以は獨立主義を肝要と

所謂一種社會問題なるも即ち獨立の基本的たる財産を
貯積して經濟的向上を圖るにあり、凡そ人生に最も大

不和を醸し朋友の交際を破
り君子をして小人ならしめ
不義不徳を犯さしめ家族の

不動産物産各種
品賣買物品ノ預リ保
管並ニ圖量設計一切

大日本商事正行社

Table with columns for names and titles: 大平 又 一, 丸山 治, 前澤 久太郎, 赤塚 兼助, 坂本 梅吉, 岸司 博造, 常磐工業株式會社, 荻野 清吉, 強口 唯七郎, 菅原 己之助, 中山 吉之助.

教育界

磐崎尋高校的

少年赤十字團組織

磐崎尋常高等小學校に於てり谷口樓に於て懇親會を催は御大典紀念事業の一としし散會した。

尋五以上の兒童を以て少年赤十字團を組織した

團長 柴田正則
副團長 高濱兼直
幹事 學校職員一同
協議員 土田克巳、酒井

嘉藏、佐藤八郎、中野常助、織内司馬太郎
鈴木道治、大平啓助
久田克位、大平ヒサ

吉田明德、御代武兵衛
白鳥宏式、久田レイ子

班長 高木十郎、山代廣志、小野武太郎、野村憲一、徐岩雄、藤本

勝彌、高木正泰、土田頼英、太田鉄二、大井

川勝代、磯上ハル、野木文字、箱崎ソノ、高田カッ、野口甲子、磯上シゲ、磯上キミ

入山校尋五 阿部武夫
學校からかへつて時計を見

るから遊びに出かけました
とありが虫を引つぱつて來

ました、その虫は大きくて
ありが三つびきぐらいで引

つぱつてもなかく引つぱ
れませんでしたから私が

もつて行つてやりました
それから家にかへりました

さうしてゆにはいつてきて
よみました。

入山校尋五 神長スイ子
私はまだ飛行機に乗つた事

がない飛行機に乗つたなら
ばきつと東京の町などは小

又飛行機もめちやくにこ
はれてしまふ。
ほんとに飛行機はあぶない

けれどもおもしろいだらう
私も乗つて見たいな。

そろばん
入山校尋五 遠藤美沙子

ばちくくく
そろばんさん

いそがしそ
いそがしそ

あせらす早
おやりなさい

あき家
入山校尋五 元チヨ

うらのあき家はさびしか
らぬと思ひます何物も恐る

長計であるといふ意味も教
育者は須く確乎たる信念

を持つて勇往邁進せねばな
らぬと思ひます何物も恐る

長計であるといふ意味も教
育者は須く確乎たる信念

を持つて勇往邁進せねばな
らぬと思ひます何物も恐る

長計であるといふ意味も教
育者は須く確乎たる信念

を持つて勇往邁進せねばな
らぬと思ひます何物も恐る

長計であるといふ意味も教
育者は須く確乎たる信念

を持つて勇往邁進せねばな
らぬと思ひます何物も恐る

長計であるといふ意味も教
育者は須く確乎たる信念

を持つて勇往邁進せねばな
らぬと思ひます何物も恐る

長計であるといふ意味も教
育者は須く確乎たる信念

を持つて勇往邁進せねばな
らぬと思ひます何物も恐る

毎日いたづらしてらうも
のである。 咄!!

ひかうき
ごぼしくら

川部校 高一男
春の松朝日がかくれチヲ

自動車が霞の中に消えにけ
るもやを分けたどりつきたる

遊んでる黒い小さな水すま
ウトデ私ハノブチャンノ

澤田武男
大久保宮ス、ノブチャンハ

ノブチャンハコトシ五ツデ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

ノブチャンハ私ノイモ
ノブチャンハ私ノイモ

祝磐城自治新報創刊

代議士 比 佐 昌 平

代議士 木 村 清 治

代議士 松 本 孫 右 工 門

元代議士 高 岡 唯 一 郎

縣會議員 古 川 傳 一

縣會議員 鷺 清 昇

縣會議員 鈴 木 辰 三 郎

縣會議員 野 崎 滿 藏

縣會議員 若 松 美 三

縣會議員 山 崎 吉 平

縣會議員 井 上 茂 作

前縣會議員 小 野 晋 平

前縣會議員 大 平 睦 四 郎

前縣會議員 高 木 已 之 吉

元縣會議員

元縣會議員

元縣會議員

元縣會議員

元縣會議員

鈴木屋自動車部

矢吹材木店

高岡自動車部

電話三十一番
電話二十一番
電話五十七番

鈴木屋自動車部 矢吹材木店

電話三十一番

電話二十五番

高岡自動車部

電話五十七番

發刊を祝して

丸正運送店

千相万象深縁育盛の氣に満つる時に當て警城自治新報の發刊を見る、時なる哉!! 勢なる哉!!

物みなすべて内に鬱積するこゝろ永く大なれば其生れ出づるや力愈々強く聲益々大なり。生れ出づべくして生れたるものに正義あれ、奪男子としていとも望ましくふべからざる信念あれ、此願はしき名譽本懐にあらず

いふもかくの如き國難來を招致する所以のものは實に心なき治者養なき長者及び之に詞して私利を營まんこと來たる然るニ其ノ制度施行ノ主體タル自治體ノ状態ハ實ニ寒心ニ堪ヘナイ程幼稚ノ點カアル概シテ云ヘバ凡テ

ノ點ニ於テ發達シテ居ナイ其原因那邊ニアル大ニ研究ヲ要スル問題ナル一般ノ敗セシメテ告白シテ辭ト

湯本尋常高等小學校長 前川三省

御代武兵衛 御代一番

銘酒醸造元 大平正次 太平

見たり聞いたり (女子取締生)

先崎集惠 醬油醸造元 磯上貞七 味噌讓造元 佐川彌平 精米業 磯上寅次 建築請負業 佐川盛太郎 藤原郵便局長 小湊徳次 磐崎村藤原 小畑寅之助 湯本町 塩や呉服店 箱崎爲次郎 電話五十八 荒物雜貨卸商 吉田恭平商店 電話五十二番 四位精米所

被治者といふものは單に名はあらざるも事一度生活をのみ相違なり、治者必しも賢なるに非ず、被治者必しも愚なるにあらざりて寧ろ被治者にして自ら治むるもの、優れるの多きを認むるに依つて規を立て法を布

社會人民之安寧ト福利トヲ増進スル機關トシテ一日モ欠クベカラザルモノハ政事

生元來政事ヲ談ズル資格ナシ況ヤ今ハ脱給雲水ノ身ナリ初ノ程ハ除リ意ニ介セザ

發刊に際して 高木 默堂

吾々は夫勢に順應する必要上此主義に立つべきである

吉田吉兵衛 野木佐内

丹野廣吉 志尾崎大八

大平市太郎 高木 晃 小久春太郎 坂本文治 坂本佐内

思想國難といひ經濟國難といふもかくの如き國難來を招致する所以のものは實に心なき治者養なき長者及び之に詞して私利を營まんこと來たる然るニ其ノ制度施行ノ主體タル自治體ノ状態ハ實ニ寒心ニ堪ヘナイ程幼稚ノ點カアル概シテ云ヘバ凡テ

ノ點ニ於テ發達シテ居ナイ其原因那邊ニアル大ニ研究ヲ要スル問題ナル一般ノ敗セシメテ告白シテ辭ト

湯本尋常高等小學校長 前川三省

御代武兵衛 御代一番

銘酒醸造元 大平正次 太平

見たり聞いたり (女子取締生)

先崎集惠 醬油醸造元 磯上貞七 味噌讓造元 佐川彌平 精米業 磯上寅次 建築請負業 佐川盛太郎 藤原郵便局長 小湊徳次 磐崎村藤原 小畑寅之助 湯本町 塩や呉服店 箱崎爲次郎 電話五十八 荒物雜貨卸商 吉田恭平商店 電話五十二番 四位精米所

祝自治新報

磐城自治新報	磐崎村役場 村長 酒井嘉藏 助役 酒井賢吾 收入佐藤八郎 兵事係 吉田正治 書記 久保木丈介 中野常助 佐藤菊松	磐崎村會議員 若松惣太郎 里見桑吉 大和田隆介 會田政次郎 織田才吉 久田克平 木田周平 大井川十郎 四家秀行 小畑寅之助 高木邦彌 金成仙藏 磯上傳平 酒井秀吉 國井縫次 吉田次 白石猶藏 在郷軍人分會長 岩並政雄	御代利平 磐崎消防組 小頭 木田忠之助 木田忠之助 伊藤兵助 小泉傳衛 酒井勝次 酒井德次 箱崎貞次郎 統計調査員 箱崎權重郎 農會總代 稻沼久太郎 磯上六太郎 箱崎千太郎 大田原朝治 實行組合長 佐川久藏	小頭 大樂與五郎 分區助發 伊藤安雄 小泉恭平 氏子總代 大平平八郎 組頭代理 小野錄郎 小頭 木田宗一郎 第二部消防會計 坂本勝清 農會總代 丹野廣吉	區長 清水角次 小野右京 佐藤助太郎 鈴木李 岩並庄八 國井次助 吉田直文 吉田金市 吉田忠七	礦泉場 鈴木万次 草ノ驛前 鈴木材木店 湯本溫泉旅館組合 組合長 埴信人 會計 鈴木信顯 風光の明媚なることに旅館としての設備の整つてゐる	湯本郵便局長 鯨岡潔 湯本驛長 渡邊初吉 酒類販賣 若松修助 入山炭礦 菅野四郎 日本セメント製 渡邊熊藏 東洋瓦工業販賣 常磐線四ツ倉	白石興業部 白石熊次 建築請負業 小野材木店 古物商 高橋由兵衛 荒物雜貨 岸商清吉 木材木炭 岸清吉 入山礦内 石川商店 各種物品販賣 吳服太物會津屋 生そば 濱松屋 和洋料理 鳴松屋 新地 新蔦樓樓 御料理 ニコニコ屋 和洋料理 やなぎや 和洋料理 つた安 旅館 湯本三業組合 旅館 岩勢崎屋 旅館 伊勢屋 旅館 丸川屋	元代議士 安島重三郎 小名濱消防組頭 小濱長太郎 川瀨炭礦々主 川瀨幸治 川部村長 兒玉萬平 縣會議員 小野貞次郎 縣會議員 太田秋之助 三井鑛山株式會社湯本鑛業所 佐藤清三郎 鈴木市郎 三宅富助	岡田好納屋 美千鳥屋 加納好鳥屋 伊達泉亭 柳川馬屋 石川馬屋 相馬馬屋 淺川馬屋 櫻川馬屋 櫻泉亭
--------	---	--	--	---	---	---	---	--	--	---

問屋業物品販賣買入
不動產動產各種商
品賣買物品預り保
管並ニ圖量設計一切

大日本商事正行社